

天から授かった宝物

(重症児者と親の心情)

熊本県重症心身障害児(者)を守る会
顧問 本松 裕生

1 はじめに

- (1)古代における重症児、重度知的障害児の存在
- (2)我が国における障害者の数

2 体験発表

- (1)誕生の喜びと現実の否定
- (2)入院、入園歴と感情の変化
- (3)人の情ときょうだいの存在

3 おわりに

- (1)障害児が生まれた時の親の心情
- (2)親の愛情と子供が存在(価値観)
- (3)重症児・者を守るための取組と課題

ひ る こ あわしま
水蛭子と淡嶋

日本では、古代から重症心身障害児、若しくは重度知的障害児というものは存在し、その記録が残っています。古事記の冒頭には、^{いざなぎのみこと}「伊邪那岐尊」と^{いざなみのみこと}「伊邪那美尊」の夫婦の間に初めて生まれた子どもは、^{ひ る こ}水蛭子(重症児)でした。」そして、この水蛭子は、「葦の船に乗せられて流されました。」とあります。次に生まれた子は淡嶋(重度知的障害児)でした。淡嶋も御子の数には入りません。古代の日本に、障害児を遺棄する風習があったのかどうか分かりませんが、西日本を中心に蛭子神社、淡島神社が無数に存在し多くの信者を持っています。禊(みそぎ)の儀式として川に流したのではないか。そして、川下には流されてきた子どもを受け止める役目の人がいて、その子を拾い上げ大事に育て、それを神として祀っていたと考えられています。

別の資料によると、海に流された^{ひるこ}蛭子を拾って育て上げたのが恵比寿さんで、^{えびす}蛭子神社は全国各地に存在します。

「重症児が生まれる時、天が親を選んで信頼できる人に子育てを任せた」とよく言われます。信用するか否かは別として、自信をもって子どもに接して欲しいと思います。

※参考

- 1 古事記(712年)は、物語として、天地創成から初代神武天皇まで描く、日本最古の歴史兼神話集です。
・上巻は、「神々の物語」、中・下巻は、「歴代天皇の物語が中心」です。
- 2 日本書紀(720年)歴史書として、神代から持統天皇までの国家の公式記録書(舎人親王)
- 3 伊邪那岐と伊邪那美夫婦の御子は、「天照大神(女神)、スサノオノミコト(男神)、ツクコミ」の三神で
水蛭子、淡嶋は御子の数には入りません。
- 4 禊(みそぎ)は、神に祈る前にきれいな水を浴びて、身の汚れを洗い清めること。
- 5 蛭子神社は、西日本に多い特に徳島県(27社)、なかでも阿南市(15社)ある。
- 6 恵比寿は、本来「遠くから来るもの」を意味し、海や異界から来訪して豊穰をもたらす神の総称でした。
- 7 海に流された「ヒルコ」がどこかの浜に漂着し、福をもたらす神として祀られたという物語が生まれ
「蛭子＝えびす」と読むこともあり、次第に恵比寿神社と同一視されました。

全国の障害者数

- 1 障害者の総数 1 1 6 0 万人（人口の 約 9、2 %）
- 2 内訳（R 5 年現）
 - （1）身体障がい者 4 3 6、0 万人（人口の 約 3、7 5 %）
 - （2）知的障がい者 1 0 9、4 万人（ 〃 の 約 0、9 4 %）
 - （3）精神障がい者 4 1 9、3 万人（ 〃 の 約 3、6 1 %）
- 3 重症心身障がい者の数
 - ・重症心身障がい者数の国による全国的統計は存在しない。
 - ・岡田善篤先生の推計では 4、3 万人（2 0 1 2 年 4 月 1 日現）
（人口の 0、0 3 3 %、1 万人当たり 3、3 人）